

鶏 肉 情 勢

令和6年4月11日 更新

全農チキンフーズ(株)

項 目		内 容
供 給	1. 国内	(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和6年3月末実施)によると、2月の推計実績は処理羽数60,611千羽(前年比104.3%)、処理重量184.3千ト(同105.3%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は0.7%下方修正、処理重量は0.5%上方修正された。処理重量ベースで前月予測・前年実績以上の成績となったものの、農場によっては脚弱・鶏病などが発生しており、バラツキが大きかったとのこと。高病原性鳥インフルエンザの影響がなかったことに加えて、北海道・東北・中部・南九州産地の増体が良好だ。 (2) 3月の計画は土・日・祝日が前年から2日増加したことによる処理工場稼働日数の減少に加え、寒暖差による育成率・増体の悪化等により処理羽数・処理重量が前年を下回る予想となっている。 4月については土・日・祝日が前年から1日減少したことによる処理工場稼働日数の増加により処理羽数・処理重量ともに前年を上回る予想となっている。3月31日時点で、9県10例(内肉用鶏1例・肉用種鶏1例)、家きんより高病原性鳥インフルエンザの発生が報告されている。工場の人員不足については外国人技能実習生が来日するようになったものの、処理羽数の増加や従業員の高齢化などにより、人員確保が難しくなっているとの声も聞かれる。副産品(小肉・剣状軟骨など)や切身といった加工品の調整を行っている産地もあるようだ。
	2. 輸入	(1) 財務省3月28日公表の貿易統計によると、令和6年2月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から+0.7千トの55.4千トで、国別ではブラジルが前月▲1.3千トの40.0千トでタイが+1.7千トの14.6千トとなった。前年同月の実績に対しては+8.3千トとなった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、ブラジルが高病原性鳥インフルエンザの影響から回復したこと等により輸入量は3月が54.0千ト(前年比113.6%)、4月は50.6千ト(同106.7%)となっていることに加え、2月の出回り量は57.1ト(同111.2%)と増加傾向であることから国内の輸入在庫は緩やかに平常時並みへ減少するだろう。一方で加工筋向けと比較的安価なタイ産ムネ肉が入荷しているという情報もあるため注視したい。 (2) 鶏肉調整品の輸入量は、前月から▲1.4千トの34.3千トで国別では中国が▲2.2千ト、タイが+1.1千トとなった。前年同月実績32.1千トとの差は+1.2千トとなり、前月比は減少したが前年比は上回る結果となった。中国・タイともに生産は安定しているが、輸出元の需要の盛り上がりや為替(円安)の影響で価格高騰の状況が続いていることもあり、過去1年スパンで見れば減少傾向が続いてる。外食についてはコロナ禍が明けた影響等で昨年よりも回復しており、中食・総菜向け等の引き合いも安定的に継続している状況である。 (3) 財務省が3月28日に公表した貿易統計によると、2月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より7.9%上昇し、鶏肉調整品は前年同月より29.5%上昇した。解体品の国別価格は、ブラジル産の輸入価格が304円/kg(前月比9円高)、タイ産が376円/kg(同4円高)となっている(国別平均価格)。前年比ではブラジル・タイともに価格が上がっている状況ではあるものの、国内市場価格は下落基調であるため、今後の国産鶏肉への影響を注視したい。
需 要	1. 家計消費	(1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和6年2月の生鮮肉消費(購入)は数量4,200g(前年比106.8%)、金額6,455円(同103.8%)と、数量・金額とも前年を上回った。鶏肉は数量1,584g(同113.0%)・金額1,605円(同108.8%)・単価101.3円/100g(前年同月▲3.9円)と、数量・金額が前年を上回り、単価は前年を下回った。調理食品が金額12,048円(同105.0%)、外食が13,631円(同113.6%)となっている。畜産の購入量は牛肉が前年を下回り、鶏肉・豚肉が前年を上回る結果となったため、消費者の節約志向の高まり等から比較的安価な食肉へ需要がシフトしたのではないだろうか。調理食品においては、共働き世帯の増加に伴う需要増や各社値上げ実施等から金額は前年を上回った。 外食においては、イベント開催の回復や、入国規制緩和での外国人旅行者によるインバウンド需要もあり、回復傾向にあると考えられる。学校給食も4月に入り再開されるため、末端消費の動向に注視したい。
	2. 量販・卸	(1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和6年2月の食品売上高は全店ベースで前年比106.0%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同105.2%、既存店ベースは同104.5%となった。また、畜産部門の売上高は約1,183億円で全店ベース同104.0%、既存店ベース同103.1%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、2月はうるう年の影響や内食需要の高まりもあり、好調な販売動向となった。気温が高く鍋物需要が不振だったものの、畜産部門は節約志向の高まりなどから家庭内の調理機会が増加した影響で前年を上回る結果となった。牛肉については全国的に動きは鈍かったとコメントがあった。総菜部門は、三連休に伴う行楽需要の高まり等で前年を上回った。ハムやソーセージなどの加工肉は前月から引き続き動きが鈍い。消費者の節約志向の高まりにより、買上点数は減少傾向が続いているようだ。
	3. 業務・加工筋	(1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和6年2月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比105.7%の4.3千トとなった。うち国内品は同107.8%の3.5千トと前年を上回り、輸入品については同97.3%の0.8千トと前年を下回った。
在 庫	1. 令和6年1月	(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の2月末時点推定期末在庫では国産34.9千ト(前年比139.6%・前月差+3.7千ト)、輸入品124.1千ト(同96.9%・同▲1.8千ト)と合計で159.0千ト(同103.9%・同+2.0千ト)となった。
	2. 見通し	(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、2月の出回り量は国産140.3千ト(前年比105.5%・前月差▲1.9千ト)、輸入品57.1千ト(同128.1%・同+12.7千ト)と合計で197.5千ト(同111.2%・同+10.7千ト)となった。3月以降の国産在庫については年度末の在庫消化がある程度進んだことに加え、輸入品の出回り量が増加していることから業務筋の動きが活発になっていることが伺える。在庫量は前年を上回る傾向は続くが徐々に国産在庫は減少すると予測する。 輸入鶏肉の入荷量はブラジルの高病原性鳥インフルエンザの影響が解消したことに加え、タイ産ムネ肉の輸入量が増加すると見込まれている。しかし、為替(円安)の影響や国内在庫が増加していることから徐々に輸入量が絞られることが予想されることから、輸入品在庫は前年差ベースで暫く上回ることが予測されるものの、出回り量が増加傾向にあることから徐々に在庫は減少していくと予測する。
相 場	1. 令和6年3月動向	(1) 令和6年3月の月平均相場は、モモ肉661円/kg(前月差▲21円)・ムネ肉364円/kg(同▲5円)正肉合計で1,025円/2kgと前月を26円下回り、前年同月を185円下回った。モモ肉相場は月初677円、月末は643円となり(昨年は月初804円、月末794円)、前年の相場を下回った。生産においては、前年に比べ高病原性鳥インフルエンザの発生は抑えられており、全国的には比較的順調に推移した。国内在庫量が増加傾向だが、量販店へ特売を打診するインテも増加したことから国産モモ肉の消化はある程度進んだ。ムネ肉においては、消費者への価格訴求としての需要はあるものの一部安価な輸入鶏肉が流通したことに伴い価格は下落基調だ。正肉と比較して比較的安価な手羽もとは、生鮮品・冷凍品ともに引き合いは強く総菜向けの引き合いは強い。相場は前述にもある通り、月初から月末まで相場は下落基調が続いた。
	2. 見通し	(1) 4月の生産量は前述にもあるように工場稼働日数の増加により前年を上回る計画であるものの、寒暖差の影響や鶏病発生による増体悪化も懸念されるため注視したい。コロナ禍の影響も薄くなり全国的に行楽需要が高まっていることから鶏肉の引き合いが強くなることに期待したい。モモ肉においては量販店の特売用として販売している店舗も目立つ。ムネ肉は消費者への価格訴求品としての引き合いは強いが、冷凍品が年度末に向けて在庫消化の動きもあることや一部安価な輸入鶏肉が流通していることから価格は若干下落基調だ。モモ肉相場は下げの月平均640円、ムネ肉相場はもちあいの月平均360円と予測する。 (2) 2月の家計調査では、鶏肉は前年の数量・金額は上回ったが、単価は前年を下回った。消費者の節約志向の働きにより、安価な商品を中心に売れていると思われる。量販店では、春型の売り場へ棚替となり、輸入モモ肉(解凍品)を販売している店舗も一部見られ、今後、高病原性鳥インフルエンザの影響で輸入量が少なかったブラジル産モモ肉が多く国内へ入荷されることが予想されるため、業務筋だけでなくテーブルミートへの拡大が懸念される。 3月の正肉相場は、消費者の物価高の理解が進んでいることも手伝い需給が大きく崩れず、正肉計1,000円以上を維持した。今後も牛肉から安価な豚肉、鶏肉へ需要のシフトが続いていくことに加え、訪日外国人は増加傾向のためインバウンド需要も期待出来る。モモ肉相場が徐々に下がる可能性はあるものの、鶏肉相場は順調に推移していくと思われる。

実 績

生産状況										単位: 千羽、千トン、%	
	R5年累計(推計)		R6年2月 推計実績		R6年3月計画		R6年4月計画		R6年5月計画		
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	
入雛羽数	784,087	101.2%	63,901	105.3%	63,837	99.5%	65,863	102.2%	65,368	101.6%	
処理羽数	743,734	100.9%	60,611	104.3%	64,717	99.8%	64,079	104.3%	64,724	101.7%	
処理重量	2,240.5	101.0%	184.3	105.3%	194.2	98.3%	193.0	102.1%	191.5	99.5%	
※参考資料: (株)全国食鳥新聞社発行「PMN」											

※参考資料: (株)全国食鳥新聞社発行「PMN」

輸入動向		単位:千トン、%									
品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R4年累計	574.5	595.8	96.4	525.8	481.0	109.3	1,100.3	1,076.8	102.2	52.2	47.8
R5年累計	584.9	574.5	101.8	478.0	525.8	90.9	1,062.9	1,100.3	96.6	55.0	45.0
R5年9月	48.4	46.8	103.4	40.8	44.3	92.2	89.2	91.0	98.0	54.2	45.8
R5年10月	47.8	53.9	88.6	44.4	44.1	100.6	92.2	98.1	94.0	51.9	48.1
R5年11月	39.2	49.8	78.7	46.6	43.1	108.2	85.8	92.9	92.4	45.7	54.3
R5年12月	51.0	44.3	115.1	44.3	40.4	109.6	95.3	84.7	112.5	53.5	46.5
R6年1月	54.7	44.4	123.3	35.7	34.3	104.1	90.4	78.7	114.9	60.5	39.5
R6年2月	55.4	47.1	117.6	34.3	32.1	107.0	89.7	79.2	113.3	61.7	38.3

※参考資料:財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

鶏肉の消費動向		単位:グラム、円、%					相場(年別・暦年)		単位:円	
履歴	数量			金額				モモ肉	ムネ肉	計
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比				
R4年平均	1,510	1,526	99.0	1,448	1,410	102.7	H28年	621	255	876
R5年平均	1,495	1,510	99.0	1,547	1,448	106.8	H29年	626	315	941
R5年9月	1,424	1,492	95.4	1,487	1,386	107.3	H30年	595	282	877
R5年10月	1,502	1,574	95.4	1,587	1,534	103.5	R元年	585	243	828
R5年11月	1,508	1,495	100.9	1,569	1,505	104.3	R2年	614	269	883
R5年12月	1,885	1,729	109.0	1,950	1,854	105.2	R3年	641	313	954
R6年1月	1,501	1,491	100.7	1,608	1,559	103.1	R4年	662	348	1,010
R6年2月	1,584	1,402	113.0	1,605	1,475	108.8	R5年	730	395	1,125

※参考資料:総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)

在庫状況(推定)		単位:千トン、%							
履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R5年9月	30.0	25.8	116.3	132.5	121.2	109.3	162.5	147.1	110.5
R5年10月	29.8	25.2	118.0	130.9	127.5	102.7	160.7	152.7	105.2
R5年11月	30.9	23.4	132.1	120.0	129.9	92.3	150.8	153.3	98.4
R5年12月	33.6	24.6	136.1	115.7	124.2	93.1	149.2	148.8	100.3
R6年1月	31.2	24.4	127.5	125.9	125.6	100.2	157.0	150.0	104.7
R6年2月	34.9	25.0	139.6	124.1	128.1	96.9	159.0	153.1	103.9

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

相場(月別)		単位:円、%								
品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計			
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	
R4年度平均	702	627	112.0	371	317	117.0	1,073	944	113.7	
R4年平均	662	641	103.3	348	313	111.2	1,010	954	105.9	
R5年平均	730	662	110.3	395	348	113.5	1,125	1,010	111.4	
R5年12月	691	773	89.4	377	417	90.4	1,068	1,190	89.7	
R6年1月	701	805	87.1	377	422	89.3	1,078	1,227	87.9	
R6年2月	682	800	85.3	369	414	89.1	1,051	1,214	86.6	
R6年3月	661	799	82.7	364	411	88.6	1,025	1,210	84.7	
R6年4月	(640)	789	81.1	(360)	410	87.8	(1000)	1,199	83.4	
R6年5月	(630)	774	81.4	(360)	408	88.2	(990)	1,182	83.8	

※ () は見直し